

今号のわだい

- 【2面】総選挙後の運動について
- 【3面】9条は宝 国平寺住職・尹碧巖さん
- 【4～5面】新型インフルエンザ対策
- 【6面】ご利用下さいカード(高知)

民医連新聞

民医連新聞発行所:全日本民主医療機関連合会 発行人:長瀬文雄

2009年9月21日

月2回 第1、第3月曜日発行
〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4(平和と労働センター)
TEL(03)5842-6451 FAX(03)5842-6460
定価330円(送料共。全日本民医連加盟事業所の職員は会費を含む)振替00140-9-189231
URL:http://www.min-iren.gr.jp
E-mail:min-iren@min-iren.gr.jp

薬害根絶デー10周年 民医連の薬剤師がつどう

「肝炎法」制定、一日も早く

薬を厳しく見る「目と構え」を



銀座マリオン前の宣伝には、全国の薬剤師など五〇人以上が参加した



銀座マリオン前の宣伝には、全国の薬剤師など五〇人以上が参加した。浅倉さんは、肝炎が悪化し辛い日々を送りましたが、裁判に立ち上がり、勝訴してインターフェロン治療を受けました。副作用をの

「もう、待てない」

薬害エイズ事件の反省から、厚生労働省の前に「薬害根絶の碑」がつくられて一〇年。八月二四日には毎年、薬害の被害者や支援者たちが「薬害を繰り返すな」と訴えて行動しています。その「薬害根絶デー」を前に三日、全日本民医連の薬剤師たちがつどいを開きました。翌朝には、銀座マリオン前で行われた薬害根絶デー実行委員会の宣伝にも参加しました。(小林裕子記者)



りこえ、六カ月でウイルスが陰性化しました。

薬害肝炎の原告を救済する法律が成立したとき、原告以外の患者を救うための「一般肝炎対策を促進する」との付帯決議も可決される。「肝炎法案」で実現するはずでした。しかし、国会の解散によって

薬害は「人災」だ



片平洵彦教授

片平洵彦さん(東洋大学教授)が講演し、「民医連の薬剤師は大活躍を」と激励しました。片平教授は「社会医療福祉学」を提唱(社会医学・臨床薬理学・医療福祉論を結合したもの)。その立場から、医薬品が備えるべき条件として「必要性・有効性・安全性」を挙げました。「必要性」

各地で薬害根絶にとりくむ

東京の宮地典子さんは「東京・薬害イレッサ三多摩シンポジウム」のとりくみを報告しました。七八七人が死亡したイレッサ、その被告メーカーが「使用される中で薬は育つ」と言っていることを批判。新薬は「仮免許」で使われている、その危険を認識し、議論していきたいと話しました。千葉の上條舞衣子さんは「千葉民医連での薬害へのとりくみ」を報告。〇五年に薬害問題委員会をつくり、裁判傍聴や集会・宣伝への参加、薬学生への働きかけ、ニュース発行などを行っています。京都の中園千春さんは「薬害イレッサ裁判支援へのとりくみ」を報告。イレッサ問題の認知度調査やニュース発行を行っています。

された血液製剤や、予防注射の器具の使い回しが原因でした。薬害肝炎全国原告団と患者団体は、「待たなし」の状況にある仲間のために、新しい国会での肝炎法の成立をめざしています。浅倉さんは「DVD「もう、待てない」※を普及し、署名を拡げてほしい」と呼びかけました。とは「他の手段で治療が可能な場合、あえて使う必要があるか?」と問うことです。薬害は、六〇年代「医療機関での長期大量投与」で多発し、八〇年代以降は「治療薬だけでなく造影剤、血液製剤、移植用硬膜、抗ガン剤などでも顕在化し、多様化している」と指摘しました。薬害は「人災」。製薬企業と国が「経済」優先でなく、「安全」を優先するよう、医療従事者と国民が被害者を支援していく必要がある、と強調しました。

には「薬学生とともに会をつくりたい」など、今後に向けた意見を出し合いました。一〇年経っても薬害は続いています。「薬」は治療に役立つ生理活性をもつ一面、企業利益とかわる商品という二面性をもつ存在。そのため危険情報隠されたり、許認可で行政との癒着が生じ、薬害の温床になってきました。東久保隆・全日本民医連理事は「薬を厳しく見る『目と構え』」をもってほしい。薬害の根を断つため動いてほしい」と呼びかけました。

参加者は「他の職種に広がる

※ DVDのお問い合わせは、オアシス法律事務所へ (〇三・五三六三・〇一三八)



一人暮らしが久々に帰ってテレビをみたら突然「交代したね」と言う。ビビるといえばゲーム、いへばテレビ欄しかった息子の言葉に驚有権者になって一年。若い世代の無党も、今回の総選挙は高かったのだから、息子に社会勉強をさせたい、バイト代を派遣村へ連れ出しボイアをさせた。はじ乗りしないようだ。都会の真ん中の公にぎりをもろうために何百人もの人びと、表情が変わった。あり方や政治に興味きつかけとなった。い息子の話は、ルバイトを条件にし始めたのだが、先がわからない。コを四力所当たった。たという。コンビ二トは学生が定番と思だが、そうではない。最近、年配の人とは見えない女性が話の中で息子の成、同時に若い世代持つてがなされる国てほしいと思った。年金からの息子の小遣いを渡す筆者の母。若い世代が高ささえるはずの構図している。その中間私たちに、国の行

考えていく責任が